

池田文書の研究 (四)

池田文書研究会

第六四五号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

*〔斉藤〕

此度外国より御取入ニ相成候御書籍数部有之候趣ニ御座候処、医学所ニは是迄御書籍甚乏敷、教導方大ニ差支、難渋仕罷在候間、何卒字典類医書類御下ケニ相成候様、此度就中

ボムホフ和蘭字典

右は別て必用之品ニ御座候ニ付、是非共五部丈ケ、医学所へ御下ケニ相成候様仕度、依之懸り御目付申談、此段奉願候、以上此段外国奉行へ被仰付被下置度奉願候、依之懸り御目付申談奉申上候、以上

右之通にてハ如何、御考之上可相認可被下候

太仲様

洪庵

(一) 医学所：お玉ヶ池種痘所の後身。文久三年（一八六三）二月十五日改称。

(二) ボムホフ和蘭字典：Dirk Bomhoff（一七九二～一八六〇）編纂のオランダ語辞典。

*〔〕は判読、翻字作業を行った会員名を示す。

第六四六号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

昨夜御帰宅後、少々御風邪之よし承り候ニ付、今朝一応御伺ヒ

可申と乍存、出勤懸ケ差急キ打忘レ外出恐入申候、折角御加養所祈御座候、扱昨日は色々御心配相懸候上、結構之御祝被下、殊ニ又一回へ御料理等被下候よし難有奉存候、乍併御厄介ニ相成候上種々御配慮却て奉痛入候、然は昨晚松本良甫へ用向有之立寄申処、種痘役割之事ニ付、奥詰四人打寄示談いたし度事有之候間、明後廿二日ハ佐田・川島両所も必ス種痘時刻出勤有之様達し呉との事ニ御座候、今朝此事も可申上管之処、前文之次第、失念無申訳次第、何卒宜ク御取計御願申上候、万々明日帰宅之上可申上候、草々已上

九月廿日 御城方

多仲様

洪庵

(一) 松本良甫：幕府裏医師。松本良順の養父。

第六四七号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

先達て種痘各段骨折候ものえ御褒美願ヒ書付差出候節、出張所之分調落ニ相成候様被存候、其節之案文見度旨、昨夜月岡・冬島兩人へ申置候処、今日何之沙汰も無之候、右案文一応御調べ被下候様御願申上候、もし愈々調落し相成居候事ナレハ、如何御取計可申もの乎、御考奉希候

太仲様

洪庵

(一) 月岡：月岡勝二郎。『日本医史学雑誌』三十五卷三二五頁参照。

第六四八号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔矢部〕

前略法印急ニ御目ニ懸リ被申度事有之候よしニ候間、乍御苦勞
即刻御出可被下候、以上

四日

太仲様

洪庵

第六四九号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

昨夜は御苦勞奉謝候、十三軒へ之各状へ深更ニ相認、今朝部屋
之ものニ為持夫々遣申候、御安心可被下候、扱拙生仮住居之事
も願之通ニ、昨夜深更ニ被仰付申候、早々引移り候積にて候、
万端宜ク御頼申上候、いづれ無程参上、万々御示談可申上とハ
奉存候へ共、一応鳥渡申上候、草々已上

九月二日

太仲様

洪庵

(一) 仮住居：文久二年、洪庵の江戸下向に際しての仮住居か。

第六五〇号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

昨日神戸へ見舞申候、必死不可救症と被存申候、患者へ頻りニ
水気の事、不食之事早く治し候様との頼ニ御座候、可然考も
有之候間、尊上御相談可申と申置候、其御心得にて程よく御あ
しらい置可被下候

廿八日

太仲様

洪庵

第六五一号文書 緒方洪庵書状 池田多仲宛

〔斉藤〕

御書籍願書草稿如何

屯所大病人引受之伺書も試ニ相認候故入御覽申候、御書籍之方
ハ早く差出度候間、思召次第早々相認候様可申付奉頼候

七日

太仲様

洪庵

(一) 屯所：文久三年に設置された歩兵屯所か。

第一四三四号文書 桂川甫周書状 池田多仲宛

〔遠藤〕

(端裏書き)
種痘所にて

池田多仲様

桂川甫周

以手紙啓上仕候、然は接遇所にてシーボルトを被贈候ブリーフ
差出候、可然被取計奉頼候、草々以上

十月廿一日

尚々先過て御回状被下候シーボルトを種痘所へ贈候手紙翻訳、
御手元ニ有之候ハ、兩三日拝見仕度、不苦候ハ、此者へ御渡可
被下候、以上

(1) プリーフ…Pencil手紙。
(2) 種痘所…お玉ヶ池種痘所。

第一一四五号文書 竹内女同書状 池田多仲宛 [酒井豊]

御安静奉賀候、然は御小姓田村肥後守殿御小兒様種痘被成度、
今日御出被成候間宜奉頼候、尤此間永田宗見(1)にも相頼置候得共、
何卒能なれ候人え御頼被下候様奉頼候、草々不具

竹内女同

池田太仲様

(1) 永田宗見…お玉ヶ池種痘所設立に際して拠金した蘭方医の一人。
医学所種痘役。適々齊姓名録(第一四四号)にその名

がみえる。

第二四九三号文書 林洞海書状 池田多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

[遠藤]

いづみはしあかり伊東様南のよこ町

以手紙啓上仕候、然は私義御用之義御座候付、明十三日四時西
丸え可罷出旨、御用番本多美濃守様(1)御達之旨主人小笠原右近
將監申聞、御用之程付難計候へとも難有仕合奉存候、

右御風聴申上度如此御座候、以上

九月十二日

猶以種痘館連中ニ而乍御面倒御序ニ御風聴被成下度奉頼候、以
上

(1) 本多美濃守…忠民、三河岡崎藩主。
(2) 小笠原右近將監…忠寿、豊前小倉藩主。

第二四九四号文書 林洞海書状 池田多仲宛 [遠藤]

夜日某々寄附金五拾両為持参候付受取、即座ニ大槻迄為持遣し
置候間御聞入可被下候
愈御清適奉賀候、陳ハ糴町平川天神前御任名倉弥五郎殿、兼々
御社中ニ而館社諸先生とも御直意之御仁ニ御座候処、此度御入
社被成度儀ニ付、小生同道参上之筈ニ御座候へ共、取込中ニ付
御一人ニ而御出席ニ付何卒宜敷被取計可被下候、以上

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

八月廿六日

尚々一昨日ハ御来駕雖有私義未参上不仕恐入候

(1) 名倉弥五郎…名倉弥次兵衛知重の養子。慶應二年八月より歩兵屯
所医師となる。

第二四九五号文書 林洞海書状 池田多仲宛 [遠藤]

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

別紙添御用向

最上乘女助下屋敷ニ御葉草為植付御借受ニ相成候ニ付而ハ、別
紙下案之通証書願度段(1)三澤良益(1)申出候、証書案ニ候へ共別段
申分も無御座候様被頼候間、今日中ニ御清書御調印被下、明日
良益出勤仕候半ニ付、其節御渡下度候、以上

四日晦日

(一) 三澤良益：お玉ヶ池種痘所設立時の掘金者の一人。
佐藤泰然の女婿。

第二四九六号文書

林洞海書状 池田多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

急要用

林洞海

〔遠藤〕

先刻参上之処御不在不得拝謁遺憾奉存候、陳者今日は組合集会相談可仕と相催候処、外一同は差支無御座候へ共、^(一)研齋老昨朝の遠方ニ参り今日帰宅も六ヶ敷趣、只今ニ成相動も御座候而断参候、右ニ付近日已来諸先生相談之義一向不分明之者斗ニ御座候故、乍御苦労大兄后々刻々御出被下度は是非御繰合奉願候、且帳面出来居候ハ、此者ニ御渡可被下候、以上

五月十六日

(一) 研齋：織田研齋。伊東實齋の子。

第二四九七号文書

林洞海書状 池田多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

金百疋包巻つ種痘之鑑札枚枚添

林洞海

〔遠藤〕

林部善太左衛門之孫男礼造當月初旬か先月下旬種痘仕候処、引つゝき大病ニ而漸此節快方ニ相成申し候、右ニ付鑑定差出し不

申候へ共真痘ニ御座候間、真痘札御遣し可被下候、右謝義として金百疋包参候間為持差上申候、是又御受取書可被下候、以上

二月廿五日

第二四九八号文書

林洞海書状 池用多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

勤用

林洞海

〔遠藤〕

明後十六日小生出席日ニ御座候処、當番ニ而出席仕兼候間、^(一)玄俊御相談之上外仁に出席御頼可被下候、以上
三月十四日於御城出

(一) 玄俊：大槻玄俊。大槻俊斎の子。

第二四九九号文書

林洞海書状 池田多仲宛

(端裏書き)
池田多仲様

急用

林洞海

〔遠藤〕

板摺師嶋村利助と申者一兩度差上候処、御留守之由ニ而御用不分明と申事、當人も朔日種日ニ下谷繪図餘程御入用ニも可相成と氣をもみ居候、板木出来致候ハ、明日一日ニも千枚斗は為摺申度候間、否御早々被仰聞可被下候、若只今御留守ニ候ハ、御帰宅次第御答可被下候、以上

三月廿日朝

第二五〇号文書 林洞海書狀 池田多仲宛

〔遠藤〕

渋谷玄龍と申者は私門人間玄庵と申者之在所之師ニ御座候、而昨年頃と覚居入門仕居候間、別紙之通申參候ニ付大兄之書狀并ニ金百疋硝子板差上候間、新塀を能御封し、金子請取書并ニ館之場所付老枚御添、今晚ニ而も明日昼前までに而も拙宅迄御遣し置可被下候、以上

三月六日

池田多仲様

林洞海

金百疋入硝子板添

第二五〇一号文書 林洞海書狀 池田多仲宛

〔遠藤〕

(端裏書き)
池田多仲様

林洞海

返上書蘭書老冊添

過日拝借之御珍書永々拝見難有返璧仕候、御落手可被下候、且御役所御蔵書之キリニーキ之内ニ而処方之経験見付置申度、昨日大槻ニ談し置候間一冊拝借仕度、此遣ニ御渡可被下候、尤拝借之證書等御入用ニ候ハ、御定法之文意可有之候間被仰聞可被下候、可相成は順よく初篇御かし可被下候、以上

八月九日

右之旨俗事役ニ御相談可被下候

(一) キリニーキ…Kinick 臨床。

第九六一号文書 箕作阮甫書狀 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

用事

景気次第相加候処、御安祥被成御過祝之儀ニ御座候、扱昨日川路より頼にて、知行所へ医者一人洋医之事修行致度、いつれかへ相頼くれ候様申事ニ御座候、右ニ付其御役所にては御差置被下候事相叶可申や、御容子相伺候、然ながら、貧生之事にて月俸無之方望之由ニ御座候間、是又如何可有之哉、委曲御しらせ被下度奉存候、其御役所にて御故障有之候共、何レかへ向口有之候ハ、是又御申付被下度御座候、右御容子相同度如此御座候草々頓首

六月九日

第九六二号文書 箕作阮甫書狀 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

病用

續て不正之天氣御座候処、御安祥之段拝嘉候、秋坪子供過日は御覽被下難有奉存候、兄之方は次第快候処、次男愈衰弱甚敷、下利は先づ相止候へ共、食ニ向ひては嘔氣有之、舌上は淨潔ニ御座候へ共、食氣少く、渴のミ多く御座候、虫を兼候哉と被存候、右付サントニネ相用度、右服量は七八歳小兒にて幾何許相用事哉、薬性論之外医書無之処、薬性論ニはサントニネは無之哉ニ被存候、何卒服量一寸御しらせ被下度、今明日御序之節御見舞被

下、何レ御葉頂度御座候、拙術にては心配計りにて、効能難期御座候、何卒御診察御葉御もらひ申度奉存候、右得貴意度、草々以上

八月五日

- (一) 兄：箕作秋坪の長男奎吾か。
- (二) 次男：秋坪の次男（菊池）大麓か。

第九六五号文書 箕作阮甫書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

用事

春寒難去御座候処、愈御安祥被成御渡相慶候事ニ御座候、然は老生事、先頃以来レウマチスコールツにて平臥罷在御座候、新禮御歎ニも罷出失敬仕候、扱懸御目相願度一条有之、何卒方角御出之御序も有之候ハ、一寸御立寄相願度御座候、如何可有御座哉相伺候、相成候ハ、今日ニも一寸御来駕奉願候、尤御ひま取候事ニは無御座候間、何分御聞取被下度御座候、右得貴意度草々頓首

正月廿五日

(一) レウマチスコールツ：Rheumatis-koorts リウマチ熱。

第九六六号文書 箕作阮甫書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
池田多仲様

箕作阮甫

秋寒次第相増候処、御安祥被成御座候敬祝至奉存候、然は秋坪妻夏日之容体にて、又々腫氣相増し、松本相願候処、遠血デキタリス等煎劑相用ひ候処、昨日頃より嘔氣有之、今日は一飯も用ひ不申、甚た心痛仕候、何卒御閑暇御座候ハ、御一診御投薬奉願度、尤今日は少し小水も分量多く相成候様申候、何分御覽之程奉願候、以上

九月卅日

- (一) 秋坪妻：箕作阮甫の次女つね。

第九五四号文書 箕作秋坪書状 池田多仲宛

〔岩崎〕

(端裏書き)
多仲様

秋坪

謹啓、時下寒氣相増候処先以益御清安被為入欣喜之至奉恐祝候、誠ニ御無沙汰に仕恐入候、只々御海容被下候様奉希候、扱先達ても相願候通り、阮甫容体書別紙之通差出申候間、宜御含置可被降奉希候、実以薬相願可申本意ニ御座候得共、俄ニ相更候付、彼是取込、乍畧御書中如此御座候、尚方其内拝眉可申上候、草々不乙

十一月六日